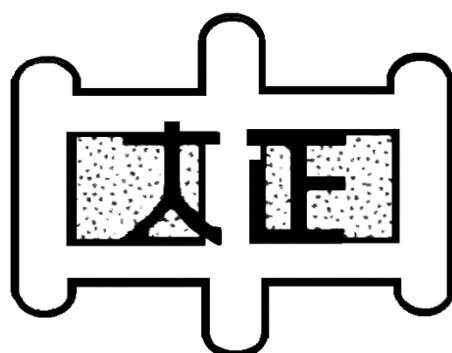


2023年度

運営に関する計画

(中間評価)



大阪市立大正中央中学校

2023 年度 運 営 に 関 す る 計 画

【学校経営の重点】

◇ **生きる力・夢みる力の育成**

— かしこく やさしく たくましく —

【本市の教育における最重要目標】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【本校の教育目標】

- ◇ 役立つ人
- ◇ 自ら伸びゆく人
- ◇ 朗らかな人

《具体的方策》

- 1 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む
- 2 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに認めあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む
- 3 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む
- 4 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む
- 5 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域の伝統行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む

《めざす生徒像～3つの“C”》

- ◇ 進んで学ぶ生徒 “ Challenge ”
- ◇ なかよく助け合う生徒 “ Communication ”
- ◇ 明るく元気な生徒 “ Cheerful ”

大阪府立大正中央中学校 2023年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【現状】

本校では、年度ごとに全国学力・学習状況調査等、各種調査及び学校評価アンケート(保護者・児童)における調査結果の分析を踏まえ、大正中央中学校「学校教育改善アクションプラン」を策定し、教育活動を進めている。今年度は**2つの「きょういく」(共育・響育)**をテーマに、「**確かな学力の育成**」・「**自尊感情・自己有用間の向上**」・「**健康で心豊かな心身の育成**」に取り組んでいく。

(2023年度「大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン」参照)

令和4年度チャレンジテスト(+1年チャレンジテスト plus)における**本校平均正答率の対大阪市平均比**は、以下の通りであった。

※()は対大阪府平均比

	国語	社会	数学	理科	英語
3年生	0.96 (0.95)	0.84 (0.83)	0.89 (0.87)	0.91 (0.91)	0.80 (0.79)
2年生	0.84 (0.83)	0.78 (0.75)	0.71 (0.69)	0.86 (0.86)	0.70 (0.68)
1年生	0.87 (0.86)	0.93	0.89 (0.88)	0.98	0.84 (0.82)

平均正答率については、**すべての学年で大阪市平均を下回ったが、1年生の理科**については、**大阪市平均に近づいた。**

また、校内の生徒アンケートにおいて、「**自ら課題を見つけて、家で勉強している**」では、肯定的な回答をしている生徒の割合は **3年：47.6%** **2年：17.7%** **1年：48.1%** と、家庭学習においては2年生に課題が見られた。

校内の生徒アンケートにおいて自尊感情の項目である、「**あなたは、自分にはよいところがある**」および「**将来の夢や目標を持っている**」において肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ **65.0%**、**65.5%** と、少しではあるが**昨年度よりも向上している。**

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、**男子のハンドボール投げ、女子の握力は全国平均を超えており、男子の長座体前屈は大阪市平均を超えている。**しかしながら、男女とも**反復横とび、立ち幅とびは大阪市平均から大きく下回っている。**

【課題】

これまでの調査結果から、本校では**学力向上に大きな課題**がある。この課題に対して、**生徒の課題に向き合う力の育成**に取り組んでいくとともに、**家庭学習の定着**に努める必要がある。

生徒の体力における課題改善のために、体育の授業の始まりの準備運動を丁寧に行い、継続させることで生徒の柔軟性、瞬発力、体幹を鍛えていくとともに、**普段から運動ができるような環境を整えていく。**

また、各種アンケート結果から「**生徒の自尊感情・自己有用感**」の項目や、「**学校が楽しい**」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのため、本校では「**2つのきょういく『共育』(共に学び育む教育)『響育』(生徒の心に響く教育)**」を教育方針として、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・2025 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ・2025 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を 令和4年度～令和7年度内で前年度より減少させる。
- ・2025 年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を 令和4年度～令和7年度内で前年度より増加させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・2025 年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。
- ・2025 年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、2022 年度に対していずれの学年も 0.1 ポイント向上させる。
- ・2025 年度の大阪市英語能力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する 中学3年生の割合（4 技能）を 50%以上にする。
- ・2025 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・学習用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
- ・2025 年度内に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する 基準1を満たす教員の割合を 40%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。（前年度 84.5%）
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
（前年度 10.4%）
- ・年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を前年度より増加させる。
（前年度 33.3%）

学校の年度目標

- ・生徒アンケートにおける「学校の規則や社会のルールを守っている」の項目について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。（前年度 51.5%）
- ・生徒アンケートにおける、「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 65.0%）

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。（前年度 26.5%）
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.05ポイント向上させる。
- ・大阪市英語能力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。（前年度 34.4%）
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。（前年度 51.0%）

学校の年度目標

- ・年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を40%以上にする。（前年度 平日 53.5% 休日 40.9%）
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、3種目を大阪市平均にする。
（前年度 3種目）
- ・年度末の校内生徒アンケートにおける「毎朝、朝食を食べている」について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 70.0%）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- ・学習用端末を活用した家庭学習を2週に1回以上実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を25%以上にする。（前年度 24.14%）

学校の年度目標

- ・保護者アンケートにおける、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 23.1%）

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】（徳） 全市共通目標（中学校） ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</u> (前年度 84.5%) ・年度末の校内調査において、<u>不登校生徒の在籍比率を前年度より減少</u>させる。 (前年度 10.4%) ・年度末の校内調査において、<u>前年度の不登校生徒の改善の割合を前年度より増加</u>させる。 (前年度 33.3%) 学校の年度目標 ・生徒アンケートにおける「<u>学校の規則や社会のルールを守っている</u>」の項目について、<u>最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を60.0%以上にする。</u> (前年度 51.5%) ・生徒アンケートにおける、「<u>自分にはよいところがある</u>」の項目について、<u>肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。</u> (前年度 65.0%)	

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・いじめの防止や早期発見・対応には学校すべての教職員が自らの問題として受け止め、取り組んでいくことが重要と考え、学校全体で生徒観察、定期的（少なくとも学期に1回）いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、いじめを許さない環境を育てる。 ・不登校生徒について、主任会、生活指導部会等で常に議論し、具体的対応策のもと学年、生活指導部を軸とし、外部機関とも連携し組織的な対応に取り組む。 ・「いじめ不登校対策委員会」を活性化させ、対応策の議論を重ねる。 ----- 指標 ・生徒アンケートの「<u>いじめは、許せないことだと思う</u>」において、<u>最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を85.0%以上にする。</u> (前年度 84.5%)	

取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・学校生活を通して、集団規律の確立を心掛け、あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、生徒の規範意識を高める教育に取り組む。 ・集団生活における基本的な生活習慣態度を身につけ、ルールを守るとともに、正しい判断と行動ができるよう育成する。 指標 ・生徒アンケートの「学校の規則や社会のルールを守っている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を60.0%以上にする。(前年度 51.5%)	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳】 ・学校教育活動全体を通じた道徳教育活動を進め、人権教育、特別活動など、様々な体験を通して、生徒同士が互いの違いを認め合い、高め合う教育を実施する。 指標 ・生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えることができている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 61.5%) ・生徒アンケートの「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答している生徒の割合を65.0%以上にする。 (前年度 62.3%)	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 徳】 ・自身がかげがえのない存在であると実感できるよう、学校教育活動だけではなく家庭・地域等との連携を図り、自尊感情、自己有用感を高める。 指標 ・生徒アンケートの「自分にはよいところがある」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 65.0%) ・生徒アンケートの「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 77.5%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・いじめの早期発見・対応には学校全体で生徒観察、定期的にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。また、定期的に「いじめ・不登校対策委員会」を開催し、情報共有と今後の対応など議論を重ねている。 ・生徒が毎朝入力する「心の天気」を活用し、生徒観察やいじめの早期発見などに役立てる体制の構築を進めている。 取組内容②【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・集団規律の確立、ルールを守ること、あいさつ、言葉遣い、身だしなみ等、集団生活における基本的な生活習慣態度を身に付けさせるために、全校集会、学年集会、学校行事など、学校生活を通じて育成を心掛けている。 取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成 徳】 ・生徒同士が互いの違いを認め合い、高め合う教育の実施のために、道徳授業でのグループ活動、体育大会を通じての教育活動など学校教育活動全体で取り組んでいる。 取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成 徳】 ・自尊感情、自己有用感を高めるために、生い立ちや家庭環境などを踏まえた対応ができるように、SC や区役所、こども相談センターなどの外部機関と協力していく。保護者、地域との連携を密にし、生徒自身がかけがえのない存在だと実感できるようにしたい。
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】（知） 全市共通目標（中学校） ・年度末の校内調査における「<u>学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか</u>」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</u>（前年度 26.5%） ・中学生チャレンジテストにおける<u>国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.05ポイント向上させる。</u>（前年度 2年：国 0.84 数 0.71 1年：国 0.87 数 0.89） ・大阪市英語能力調査における<u>CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を前年度以上にする。</u>（前年度 34.4%） 学校の年度目標 ・年度末の校内調査における「<u>学校の時間以外の家庭学習</u>」について、<u>1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。</u>（前年度 平日 53.5% 休日 40.9%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・教科の授業だけではなく、様々な活動の中でコミュニケーション活動に取り組む。 ・調べ学習や課題解決を通して自分の考えを深めたり、広げたりする学習を行い、思考・判断したことを説明し、それらを基に議論する力を養う。 指標 ・生徒アンケートにおける「<u>学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか</u>」に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</u>（前年度 26.5%）	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図る。言語活動・理数教育を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。 ・また、各教科において小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、生徒の学びに向かう姿勢を醸成する。 指標 ・中学生チャレンジテストにおける<u>国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも0.05ポイント向上させる。</u>（前年度 2年：国 0.84 数 0.71 1年：国 0.87 数 0.89）	

取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・ C－N E Tとの授業連携を強化し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語 3 技能の強化に取り組む。 ・ また、習熟度別授業を活用し、生徒一人ひとりのリーディング・スピーキングの機会も増やし、「読むこと」「話すこと」の英語 2 技能の強化に取り組む。 ・ 「書くこと」においては、家庭学習や小テスト・単元テストなどで強化に取り組んでいく。	
指標 ・ 大阪市英語能力調査における <u>C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を前年度以上</u>にする。 （前年度 34.4%）	
取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・ 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を教科ごとに作成、提供し、自主学習の習慣を定着させることで、自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。	
指標 ・ 生徒アンケートにおける「<u>学校の時間以外の家庭学習</u>」について、<u>1 時間以上の生徒の割合を前年度以上</u>にする。 （前年度 平日 53.5% 休日 40.9%）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・ 3 年生で取り組んでいる 探究・読解プロジェクトを中心に、コミュニケーション活動に取り組んでいる。課外活動においては、生徒会が子ども市会やスマホサミットに参加し、議論し自分たちの意見を伝え、考えを深める活動を実施している。また、各学年において、総合的な学習の時間・特別活動の時間に生徒たちで一つの議題について考える時間を設け、議論する力を身に付けさせるように努めている。
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・ 各教科において小テストや単元テストを実施している。思考力・判断力・表現力を育成するために、班活動など様々な学習形態において、「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、朝学活の時間には読み物資料の課題に取り組んでいる。
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・ C－N E Tとの授業においてはオールイングリッシュの授業を実施している。特に、「聞くこと」「話すこと」の強化に取り組み、スピーキングテストをC－N E Tに実施してもらっている。「書くこと」の強化に向けては、新出単語の小テストや単元ごとの小テストにも取り組み、3 年生においては、夏休みに単語冊子を配付し、夏休み明けすぐに単語テストを実施している。「読むこと」については、習熟度別授業の展開にも取り組めておらず、単語の理解が進んでいないこともあり、強化に至っていない。
取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・ オンライン課題の活用や学習者用端末の持ち帰りが定着し始めている。今後は、各教科における宿題の配付状況の調査等を実施し、より一層家庭学習を定着させられるような取り組みを実施していきたい。

次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】（体） 全市共通目標（中学校） ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。（前年度 51.0%） 学校の年度目標 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、3種目を大阪市平均以上にする。（前年度 3種目） ・年度末の校内生徒アンケートにおける「毎朝、朝食を食べている」について、最も肯定的な「あてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 70.0%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・体力テスト、体育的行事（体育大会等）を日ごろの体育の授業や部活動での成果を発揮する場として位置づけ、体育委員を中心とした主体的活動に取り組む。 指標 ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、3項目以上大阪市平均を上回る。 ・生徒アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」において、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。（前年度 78.0%）	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・関連する教科や総合的な学習の時間、特別活動等を通じて、健康に関する指導を実施するとともに、感染症の予防のための日常指導や薬物乱用防止、環境問題など現代的な課題について正しい知識が身につくような取り組みを行う。 指標 ・生徒アンケートの「自分の健康に気をつけている」において、「よくあてはまる」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 51.3%）	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・地域の防災活動や災害時の助け合い活動を理解し、日常の備えや的確な判断のもと、自ら進んで行動できる態度を育成する取組を行う。 指標 ・生徒アンケートの「震災や火災などの災害や、事件・事故の発生時に、身を守るための対処法がわかっている」において肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	

取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】 ・生活委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人一人が健康に気を付けるように取り組んでいく。 ・生徒に健康の大切さを学ばせるために、「保健だより」や「食育だより」・「給食だより」などの資料を定期的に発行し、健康意識の向上を図る。 ・食に関する知識を身につけるため、学校給食を生きた教材とし、技術・家庭科（食生活と自立など）など関連する教材と連携し、指導を行う。 指標 ・生徒アンケートの「毎朝、朝食を食べている」において、「よくあてはまる」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。（前年度 70.0%）	
--	--

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】 ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」については現在結果待ちの状態である。 ・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」については学年も含め、体育的行事（球技大会等）を行い、体育科の中で運動に関心を持てるような授業をするように取り組んでいる。 取組内容②③【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】 ・自分の健康に気を付けるということは自分の命を守ることにもつながるので、救急救命講習会や保健だより、避難訓練などを通して考える時間を作っている。 取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】 ・食育の観点から昼食時に献立の説明や栄養に関する話を放送で流している。 ・調理方法など楽しみながら関心をもってもらおう工夫をしている。	
次年度への改善点	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標（中学校） ・学習用端末を活用した家庭学習を2週に1回以上実施する。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を25%以上にする。（前年度 24.14%） 学校の年度目標 ・保護者アンケートにおける、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 23.1%）	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】 ・教員の授業力向上に向けて、学習者用端末を活用するための校内研修を実施し、授業や家庭学習におけるICT機器の補完的活用法を研究する。あわせて、ICT機器の整備と効率的な運用を図る。 指標 ・保護者アンケートにおける、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 23.1%）	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】 ・昨年度検討した、「働き方改革大正中央2022」について実践していくことで、教職員の時間外勤務時間の削減に努める。 指標 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を25%以上にする。（前年度 24.14%）	
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】 ・学校ホームページや学年だよりなどを通して、学校の取り組みを保護者・地域へ広く発信していく。 指標 ・保護者アンケートにおいて「学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている」において、最も肯定的な回答を50%以上にする。（前年度 41.4%）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進	【知】
・教員の授業力向上のために、Google Classroom を使用した実技の校内研修会を2回実施した。また、9月には採点支援システムを使用するための校内研修会を実施した。教員間の相互授業参観においては学習者用端末の活用をテーマに授業研究に取り組んでいる。昨年度と比較しても、学習者用端末の使用頻度は向上しており、ICT機器を活用した教育活動に取り組んでいる。ICT機器の整備については、教育委員会と連絡調整しているが、予備機の台数確保が難しい現状が課題である。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり	【管】
・今年度より「働き方改革大正中央 2022」に基づき、①日課時間表の見直し ②職員朝礼の廃止 ③校内組織の見直し ④通知表書式の見直し ⑤会議の見直し ⑥17時、18時にチャイムを設定 ⑦完全下校時間の設定 ⑧ミマモルメの本格運用 を実施した。 ・「働き方改革大正中央 2022」を改訂し、「働き方改革大正中央 2023」を策定、教職員を対象に研修会を実施した。	
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進	【管】
・学校ホームページを随時更新し、本校の取組を広く発信している。 ・各学年の取組は、学年だよりや学級通信で発信している。 ・今年度より運用している「ミマモルメ」を有効に活用し、保護者メールで情報を発信している。	
次年度への改善点	